

〔4番 白倉麻里奈さん登壇〕

○4番（白倉麻里奈さん） 白倉麻里奈と申します。

それでは、通告に従いまして質問をいたします。

私は、就職のためにUターンをして、島田市へ戻ってまいりました。島田へ戻ってから、さまざまな人とつながりを持ちたいと考えましたが、その方法がわからず、新たな関係性づくりにとても苦労した経験があります。人とのつながりの量や質が生活の豊かさと大きく関連すると言われており、私自身もそれを感じておりますが、かつてないほどの人口減少により、既存のコミュニティの中でのつながりの量や質がともに低下している現状があると思います。島田にかかわるさまざまな人々が互いに多様なつながりを持ち、複数のコミュニティに参加できる環境があれば、それが生きやすさや生活の豊かさにつながると考えます。

そこで、市民や市民以外の方が多様なつながりを築くための仕組みづくりについて、次のとおり質問いたします。

(1)現在、転居及び就職、進学等により新たに市内で生活を始めた人に対して、もともと住んでいる人とのかかわりを持たせるような支援はありますでしょうか。

(2)市が実施している事業の中で、来場者と主催者、イベント参加者がつながりを持てるような事業はありますでしょうか。

(3)人口減少、高齢化により、移住した定住人口ではなく、観光に来た交流人口でもない、地域と多様にかかわる関係人口という概念が提唱されております。市の事業を推進する一つの視点として取り入れてはいかがでしょうか。

〔4番 白倉麻里奈さん発言席へ移動〕

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 白倉さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。人と人がつながるためにはさまざまな入り口があり、その方法も

多種多様であります。市でも、さまざまなイベントや講座、教室といった、市民が気軽に参加できる交流の場を設けたり、子育て応援サイト「しまいく」など、同じ悩みや思いを持つ人同士をつなげるための情報提供を、あらゆる機会を通じて行っております。

しかし、市外から転入された方が一番最初に人間関係を構築する場としては、まず、近隣の住民との交流があり、そこから地域での活動等を通して人間関係を広げていくことが多いのではないかと思います。

市としましては、イベント等の開催や情報提供はもちろん、自治会活動への参加を誘導する事業について補助金を交付するなど、地域内の交流促進を図る取り組みに対しさまざまな支援を行っているところです。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。本市では、東西南北、そして、空へとつながる交通結節機能を生かしたさまざまなにぎわいを創出する事業を実施しております。川根本町と共催するSLフェスタは、その代表例です。このほかにも、蓬莱橋や川越遺跡、そして、中心市街地のおび通りなど、市内の特色ある地域資源と連動するさまざまなイベントを開催しております。

こうしたイベントには、住民によるステージ運営や地域の物産販売といった、企画から実行まで市民の方がかかわりを持つ場も用意しております。市外から島田市を訪れる人を初め、来場者と積極的に交流できる機会を設けてきました。地域を盛り上げたいという思いと、この地域を知り、また来てみたいという思いを重ねることで、地域活性化につながる高い相乗効果がもたらされるものと考えております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。関係人口とは、移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもなく、地域にかかわってくれる人口のことで、自分のお気に入りの地

域に週末ごとに通ってくれたり、頻繁に通わなくても、何らかの形でその地域を応援してくれるような人たちのことです。例えば、イベントスタッフにみずから参加し、ともに汗を流しながら地域課題の解決に継続的に取り組む、地域にインパクトを与える人たちや、その地域のよさをSNSや口コミで発信してくれる人たちです。こうした関係人口の創出には、地域の魅力をローカルに見つめて、そのよさを発信できる人材や、地域をおもしろがって盛り上げる地元の若者の存在が欠かせません。

地方では、人口減少、超高齢化が進んでおり、地域づくりの担い手の育成や確保は最優先に取り組まなくてはなりません。そのために、地域外の人がその地域にかかわることで、地域社会に貢献できたり、何かを変えることができる部分、いわゆるかかわりしろを見える化することで、それらにかかわる人と人をつなぐ人材の育成などを進めていきたいと考えております。

以上、御答弁申し上げます。

なお、再質問につきましては、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いたします。

○議長（村田千鶴子議員） 白倉さん。

○4番（白倉麻里奈さん） 質問への回答、ありがとうございます。

では、私から、質問というよりは、こちら、提案になってくるのですが、1つ意見を言わせていただきます。島田にかかわる人同士のつながりづくりのための幅広い支援をするために、関係案内所というものの機能を、例えば、公共施設、観光案内をする観光案内所に設けてはいかがでしょうか。今申し上げた関係案内所というのは、観光案内所というと、観光スポットみたいなものを紹介するような場所になってくると思うのですが、そうではなく、人と人との関係性ですとか、地域とのかかわり方を案内する機能を果たす場所のこと

です。先ほど1番で答弁されました小栗さんのお宿も、そのような関係案内所の一つになってくるのではないかと私は感じています。いつも同じ人としかかかわらない、閉じたつながりの中では、人は息苦しさを覚えます。新しい人の流れをつくり出す外からの関係人口は、その存在自体に価値があります。

また、最近、私が訪れた長野県の小布施町というところでは、関係人口からまちづくりにかかわり、7年にわたってさまざまな取り組みを小布施町で仕掛ける大宮さんという方を初めとして、外の方の力をかりた課題解決の仕組みが実際に運用されていました。

また、私がふだん生活をする中でも、何かをしたいとは思っているものの、実際にどうしたらいいのかわからないという人が多いかと思います。ただ、そのように潜在的に何かをしたいと思っている人は、実感として多いように思います。

そのような市内の方、市外の方、いろいろな人たちが気軽に集う場所があればいいと思います。新しい人の参加を促すためにも、場というものが必要であり、さらにそれだけではなく、そこに来た人たちをつなげる仕掛け人というのも必要だと考えています。

そういった点から、場所だけを紹介するのではなく、そこにかかわる人やコトを紹介する機能が必要だと考えます。そこから関係人口となっていく人々が増えていく一歩目が始まっていくのでしょうか。

以上で、関係案内所の設置をしてはどうかという私の提案を終わります。

○議長（村田千鶴子議員） 鈴木市長戦略部長。

○市長戦略部長（鈴木将未） 御提案、ありがとうございます。今、関係案内所ということで、関係人口という新しい言葉も出てきているところであり、ありますけれども、市長答弁で申し上げましたとおりに、地方、今、人口減少社会で、地域づくりの

担い手というものの掘り起こし、育成、確保については最優先に取り組んでいるところでありますし、どこの自治体も多分最優先に取り組むというような課題だと考えております。

今、小布施町の事例も挙げていただきましたけれども、例えば、小布施町では、大学等は当然ないのですけれども、そうした町でも、全国の人を集めた研究大会というのも開いて、いろいろな情報を交換しながら、関係人口の創出というのに努めているというのも聞いておりますし、町の課題なども検討しているということを知っております。

御提案いただいたように、観光案内所的なところで関係案内所をということで、場の提供というのもお話もありましたけれども、場としましては、例えば、今、島田市でも開いていますけれども、市民活動センターなどもそうした場になるのではないかと考えております。

それから、白倉さんもおっしゃるように、場だけではなく、人と人をつなぐ人材ということも大切になるということをおっしゃいました。確かにそのとおりだと思います。小布施町にもありましたように、先ほど大宮さんという方の御紹介もあったと思いますけれども、そうしたコーディネーターのような核となる人材、こうしたものも重要だと考えております。そうしたところで、コーディネーターというものの育成というのもきっと重要になってくるのではないかと考えております。

例えば、島田市の川根町の笹間地区で「企業組合くれば」というのが核となりまして、自治会やNPOも協力して、地域を挙げていろいろな取り組みをしているという事例もございます。これも一つの関係人口の創出につながるようなよい取り組みだと考えております。

市長からも何度も答弁してはいますが、かわりしろ、こうしたものを見える化するということ、それから、いろいろな情報を発信していく、そういったことと同時に、先ほどから申し上げて

いるとおり、つなぐ人を育成する、こうしたことも積極的にやっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 白倉さん。

○4番（白倉麻里奈さん） 御回答、ありがとうございました。このようなさまざまな取り組みを経て、さらに島田で多様なつながりが生まれるような市になっていけばいいなと思いました。

本日はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。以上で質問を終わります。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 感想のような話になってしまって申しわけないのですが、関係案内所ということについては、私も以前からずっと関心のあるところであり、島田市においていかに関係人口をつくっていくかということ、島田の課題の一つとして役所の中でも大分前から検討していることでございます。

そうしたときに、観光案内所は、そこに行けば、さまざまな観光に対する情報を得られるところ。しかし、関係案内所は、集う場は必要なのですが、逆に市内にたくさん、ここに行くと本当に魅力的で都会から来た人は一気に引き込まれていくような、固有名詞は挙げられませんが、役所の近くにある酒屋さんなども、酒屋さんの隣に飲める場所があって、本当に非常にローカルな交流のできる場で、都会から来た方たちは大変魅力的だと言ってくださいます。そうした場の一つ一つが、関係案内所になり得るところであります。

かつ、また、小布施町がうまくいったのも、そこに人がいたからです。同じことをまねすればいいのではないかといても、そこに人が育っていないと、実現はできません。ですから、島田にいるすばらしい人材で何を仕掛けられるかということがとても大事になってまいります。

ぜひ白倉さんにそのコーディネーター役といたしますが、このまちの関係案内所をつくる、関係人口

を生み出すためのコーディネーターになってもらえたらうれしいという期待を持って、今日の質問を聞かせていただきました。ありがとうございます。